

中の棚商店街 街路灯



所在地：広島県広島市中区立町・本通
 施主：広島市中の棚商店街振興組合
 照明改修施工：東芝エールソリューション(株)
 照明改修完成：平成24年9月

S187

デザインを重視した街並づくりを進めてきた広島市中の棚商店街が、50基の街路灯を全てLED照明にリニューアル。維持管理費の大幅な削減を実現しました。

広島市中心部にあり、中国地方最大の繁華街の一角をなす中の棚商店街

広島市を代表する繁華街、本通の北に隣接する中の棚商店街は、天正17年(1589年)に毛利輝元公が広島城の築城に取りかかったのを機に誕生した魚市場がその起源。以来400年以上にわたり広島の食文化を担いつづけ、現在もグルメ&ファッションの街として大変な賑わいを見せています。

平成2年(1990年)、商店街としての理念の確立や将来像の策定がなされ、その後意匠性が際立った街路灯の設置や歴史に基づいた赤御影石の敷石敷設、ロゴマークやサインアートの制定など、デザイン性を強く意識した街区の景観整備が進められました。独創的な街並づくりは、数々のデザイン賞を受賞するなど高く評価されてきました。

街路灯器具の老朽化によりリニューアルを実施、LED街路灯に一新

従来の街路灯では150Wセラミックメタルハライドランプが採用され、常夜灯でほぼ2年ごとのランプ交換が行われていましたが、設置後10年を超えた頃から不安定さが増し、安定器の交換や修繕も必要となり、維持管理コストが大きな負担となっていました。そこで250W形水銀ランプ器具相当の明るさで70%の省エネが図れ、かつ60,000時間の長寿命光源のLED街路灯への更新を決定。支柱部分は放送設備や足元灯、アートフラッグと一体化されていたことから、機能とデザイン性を維持することにも配慮し、そのまま利用できるように特製のデザインアームを用いた施工としています。LED街路灯の灯具は、スリムな丸形のシルエット形状で、上方光束ゼロの広がる配光により効率よく照射。光色は3000Kの電球色で、下面カバーのフロスト化によりまぶしさを抑制しています。さらには初期照度補正機能内蔵の電源ユニット(70%段調光可能)を採用し、さらなる省エネ・CO₂の削減を図りながら街路景観に溶け込んだしっとり落ち着いた温かみある照明環境が創出されました。

こうしたLED街路灯に更新したことにより、既存比年間消費電力74%、年間ランニングコスト79%の削減を可能にしています。



水銀ランプ器具からLED照明に一齐リニューアルされた独立柱タイプのLED街路灯。赤御影石の敷石が作り出す街路景観と調和させた照明環境



LED街路灯は70%照度補正をされながら足元照度は従来の約2倍を実現 LED街路灯(フロストガラスと電球色の採用)

主な照明器具一覧				
設置場所	器具名	形名	台数	ランプ・備考
屋外	LED街路灯(灯具)	LEDG-10802WS改	50	LED電球色 消費電力:58.8W(調光時・定格99W)
	LED街路灯(電源部)	LEK-450P026A1T	50	初期照度補正機能内蔵